

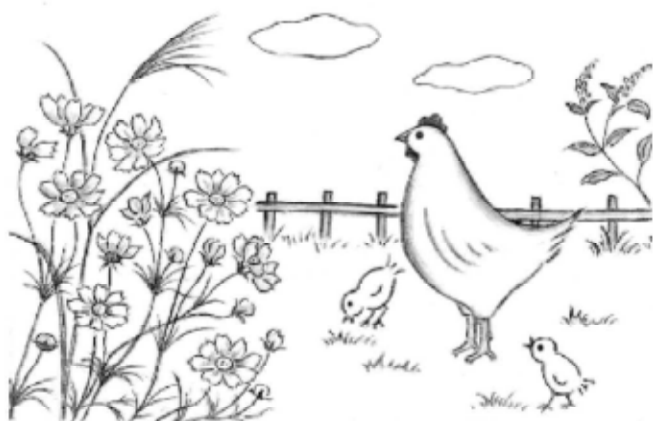
●三位一体後第十三主日

泉のほとり

今日の詩篇「第六十二篇」

わたしの魂よ、

沈黙して、ただ神に向かえ。



末席に座りなさい

ある人の家で、イエスキリストは招待を受けた客が上席を選ぶ様子に気づいて、彼らに「たとえ」を話されました。「婚宴に招待されたら、上席に着いてはならない。あなたよりも身分の高い人が招かれており、あなたやその人を招いた人が来て、『この方に席を譲ってください』と言うかもしれない。そのとき、あなたは恥をかいて末席につくことになる。招待を受けたら、末席に座りなさい。そうすると、あなたを招いた人が来て、『さあ、もつと上席に進んでください』と言うだろう』と言われました。それから「誰でも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」と言われたのです。「末席に座りなさい」とは、高ぶりではなく、へりくだった心で末席に座ることです。

招かれた客は皆「先生」と呼ばれる社会的に著名な人たちがかりだったと想像します。それゆえに彼らは皆、上席の隅りに集まってそこで誰が偉いか、私がかかあの人か、この人かと互いを見定めようとしている様子だったと思います。まったくつまらないこと、まことにむなししいことにこだわって互いを見ている有様がキリストにはどれほど愚かに見えていたのでしょうか。「塵に帰れ」と言われている人間です。その人間が上席を争っていることに、「塵に帰れ」と言われる神さまへの立ち返りには程遠いものを感じるのです。

この世の人々は「上席に座ろう」として生きています。常に誰が偉いか、誰が上か下かという判断が人々の間に蔓延しています。会う人会う人、無意識

にこの人はどこの出身で、どこの学校、どこの会社、どんな仕事をしていて、どのぐらいの成績、経済力があるのか、時には家の広さや車の大きさなどまで比べながら、誰が偉いか、相手か、私かと判断するのです。誰が上席か末席か。そのため、人々の間での評判を常に意識して生きています。

しかし、そういう心では教会で語り続けられてきた「隣人を愛する」、「人に仕える」という聖書の戒めに生きることができません。当然のことですが、上席に座ろうとしている心に支配されている者が人に仕えることはできません。それは仕えられようとしている心のまま、人に仕えようしていることです。

今日「末席に座りなさい」と言われているキリストご自身、十字架という恥辱を受ける末席に座ってくださいました。末席を末席とも思わず、人々のために真に仕えてくださいました。その恵みはキリストの弟子となる者の心をもへりくだらせる、神の力です。

その恵みの方に心支配されている者は、塵にすぎない自分のために「主」が先に座ってくださいました末席を「光栄」と思うでしょう。その末席を愛して生きる者です。その力が私の中でも豊かに働き、この世のむなししいものにこだわることをやめ、へりくだった「小さな者」となることを喜びとし、キリストの弟子として、この仮住まいの生涯を全うして生きていきたいと願うものです。

(ルカ14・7～14)

祈り

○あなたが、この朝の健康と、ここに来る勇氣と信仰を与えてくださいました。だからこそ、わたし共が望みを抱いてここに集まり、多くの兄弟姉妹と共に祝福の挨拶を交わし合うことができます。今、主にありますが兄弟姉妹を迎えて礼拝をささげることができますことを心から感謝いたします。

生けるものに命を与え、これになくてならぬものを与えてくださる父なる御神、「思い煩うな。・・・一日の苦勞は、その日一日だけで十分である」と言われた主の御言葉を思い起こします。しかし、思い起こす御言葉によつて反省をも促されます。この朝、ここにいながら、なお思い煩いからすつかりと解放されていないからです。あの人やこの人を恐れ、明日、明後日の自分の生活に不安をもち、今与えられている生活に不ぶやきを覚え、あなたが与えてくださる課題に耐えるに必要な信仰をもつていないことを思わざるを得ないのです。

そのようなわたし共の姿をあなたが憐れみをもつて顧みてくださり、生きる道をあなたが備えてくださることを信じることができますように。肉体の疲れを覚えております者に、それに打ち勝つだけの礼拝の喜びを与えてください。家族のこと、職場のこと、学校

のことで重荷を覚え、疲れを覚えていらっしゃる者がいますならば、主の翼のもとに慈う安息を味わうことができますように。重荷を喜んで担つていくだけの力を与えてください。

そのような力を必要としている者が、ここに來ることができません。家にあつて、病床にあります。それらの人々の願ひにあなたが耳を傾け、主イエスの恵みをもつてこれに報いてくださいますように。あなたの名を呼ぶことを知らないまま、深く憂いの中にいる者がたくさんいることを思います。わたし共の伝道の言葉、力の弱さ故に、それらの人々の心を捉えることのできないことを申し訳なく思います。しかし、どうぞこの詞を越えて、あなたの思ひがひとりでも多くの人を捉えますように。深い悲しみの中にある人に、憂いに閉ざされている人に、それに相応しい助けを与えてくださいますように。

この地上、この世界を顧みてください。誰もが争うことの愚かさをよく知つていながら、争いの準備に多くの富を費やさなくてはならない国々の姿を憐れみのうちに覚えてください。政治に責任を持つ者に、平和に生きる信念を植え付けてください。

世界にある教会と信仰の兄弟姉妹たちを覚え、そのひとつの枝としてわたし共もここに居ることの光栄を感謝し、心からなる礼拝を献げることができそうですように、御言葉と御霊とをもつて支えてください。

主イエス・キリストの御名によつて、感謝し、祈り願ひます。アーメン

(加藤常昭「み前にそそぐ祈り」より)

今日のお知らせ

○第一礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコーヒースービスがあります。圖書二階のリズム室では、「ぶどうの会」が、幼稚園舎二階のなでしこの部屋では紫雲香音楽伝道師の指導による貴美と祈りの会が開かれます。どうぞご参加ください。

○第二礼拝後、ホールで、讃美と報告の会をします。お屆はお弁当です。

○昼食後、ホールやその他の場所で、バザーの準備を始める店があります。お手すきの方は、お手伝いください。

○明日は東京説教塾の例会がホールで行われます。

○一五日(金)朝、一時から、シオンの会があります。ハイデルベルク信仰問答の問一〇三を学びます。新しい方々を歓迎します。

○一二月二四日のクリスマス礼拝で受洗・転入会をご希望の方は、入信記を書いて、九月二四日まで、牧師宛お出しください。

○例年この時期に、説教塾のための献金をお願いしています。特に経済的に厳しい地方の教会の牧師の学びを支えるために献金をいただけるご感謝です。事務所のカウンターにある袋をお用いいただいて、献金は事務所へお届けください。

四国だより

(次週の続き)

五月の牧会報告と致しましては教会員の皆様の信仰のうるわしさを主がどれ程お喜びになっておられるだろうと胸が熱くなり、主のお導きを感じ感動しております。開拓伝道の第一歩より念頭にありましたのは(礼拝堂に貼ってあります)

- 一 聖潔なる心
- 二 従順なる心
- 三 謙遜なる心

これらをもって目指すところは、黙示録二章の御言葉、「汝、死にいたるまで忠実であれ、さらば我、汝に命の冠をさずけん」。今や教会員の皆さまが主の尊いお約束を心に感謝と希望と喜びの中で信仰生活に励んでおられます。クリスチャンになつて初めて手にした聖書が文語体でしたので、そのまま礼拝堂の後方に掲げております。礼拝で用いているのは新共同訳聖書です。

次の六月の報告書では「開拓十周年」の記念誌を用い、主が驚くべき奇跡的な方法で新しい出会いを与えて下さった事をお知らせ申し上げます。この事の故に、八月には東京の小石川教会より一人の姉妹が、松山

より二人の姉妹が一人の兄弟と一緒に来訪されます。主はいつも新しい出来事を突然に、大きな驚きと喜びを添えて実現して下さい、感謝は尽きません。

私共、小さな群れを覚えて下さり、いつもとりなしのお祈りをしていただく古村先生、黄先生、そして教会員の皆様に心よりの感謝を申し上げます。皆々様の上に主のうるわしき祝福を祈りつつ。

二〇一七年七月十日 田端良恵

ごあんない



9月16日(土)午後2時よりグロリアチャペルにてメタモルフォオのコンサートが行われます。紫園 香姉の指揮・フルート演奏、藤本敬三兄も出演されます。

聖書の会

9月13日(水)

○朝の聖書の会(10時)

ペレアのユダヤ人たちは、使徒17章10〜15節
黄 允湜 副牧師

○聖書の夕べ(19時)

「主の権威に従う」
ルカ20章1〜8節
古村和雄 牧師

ミニコンサート

9月21日(木) 12時30分開演

この人を見よ、他
ピアノ演奏 原田信次郎

次週礼拝

●第1礼拝(午前9時30分)

讃美歌 301番 讃2-1 57番
説教 「あなたを探し求めて」
聖書 ルカ15章1〜10節
説教者 吉村和雄 牧師

●第2礼拝(午前11時10分)

讃美歌 76番 260B番
詩篇 第62篇
説教 「わたしはあなたの居である」
聖書 創世記15章1〜21節
説教者 菊池美穂子 姉



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 301番

讃21 57番

説教 「主の弟子になるために」

聖書 ルカ14章25～33節 (新約P137)

司式者 山下 純一 兄

説教 聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「前奏曲」A.ドゲルガー

○讃美歌 301番

- 1.山べにむかいてわれ 目をあぐ
助けはいずかたより きたるか。
あめつちのみかみより たすけぞわれにきたる。
- 2.み神はなれの足を つよくす
み守りあればなれは うごかじ。
みたみをば守るもの まどろみねむりまさじ。
- 3.み神はあだをふせぐ たてなり
ながみをつねに守る かげなり。
よるは月、ひるは日も なれをばそこなうまじ。
- 4.み神はわざわいをも さけしめ
疲れしたましいをも やすます。
いずるおり、いるおりも
たえせずなれを守らん。

アーメン

○フルートによる讃美

「黄金のエルサレム」 ユダ

○讃美歌21 57番

- 1.ガリラヤの風かおる丘で
ひとびとに話された めぐみのみことばを
わたしにも聞かせてください。
- 2.あらしの目波たけるうみで
弟子たちにさとされた ちからのみことばを
わたしにも聞かせてください。
- 3.ゴルゴタの十字架のうえで
つみびとをまねかれた すくいのみことばを
わたしにも聞かせてください。
- 4.夕ぐれのエマオへの道で
弟子たちに告げられた いのちのみことばを
わたしにも聞かせてください。 アーメン

※礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 59番 341番

詩篇 第62編 (旧約P894)

説教 「心のきよい人は」

聖書 マタイ6章22～23節 (新約P10)

司式者 山下 純一 兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教 黄允湜 副牧師

前奏曲「前奏曲ニ長調」J.S.バッハ

○讃美歌 59番

○フルートによる讃美

「黄金のエルサレム」 ユダ

○聖歌隊による讃美

「主のこころを」 P.ワグネル

主のこころを おのが心とせよ
主は神の形であられたが
神と等しくあろうとされず
おのれを榮しくなし しもべの形を取りて
人のごとくなれり
おのれを低くして
十字架の死に至るまで 従われた
神は彼を引き上げ 全てに勝る名をたまえり
そは 御名により 天と地と
地の下のもの全て ひざかがめ
言もてイエスこそは 主と述べ
神の榮光 たたえるため
主の御心 我がうちにすみたまえ
心と行ない導きて 海に満ちる水のごと
主の愛 我に豊かに満ちたまえ
主のみを見上げて 進ませたまえ
勝利の望みは 主にあり！ アーメン

○讃美歌 341番

聖餐曲「パン」 ユダ

後奏曲「アレグロ」J.S.バッハ

聖餐曲「パン」 ユダ

後奏曲「アレグロ」J.S.バッハ